函館短期大学紀要
43;1-8，2017

ライフデザインと不安傾向の関連
－栄養士へ対する職業意識－

庭　亜子，小岩　眞智子

Relation between life design and anxious tendency
－ Vocational awareness of junior college student to dietician －

Ako NIWA, Machiko KOIWA

１．はじめに

自分らしく生き生きと生活を営むためには，自分で自分のことを決める「自己決定」と，なりたい姿を具現化する「自己実現」について考えることが必要である。自己決定は，自分なりの判断と選択の連続であり，自己実現には，選択した意思決定に基づき自己の内にある可能性を引き出し実行する能力を要する。御船ら[1)]は，将来の生き方に対する行動指針を考えるために，「ライフデザイン」の概念を示している。ライフデザインは，家庭，学校，仕事などの「生活領域」と，就職，結婚，出産などの「ライフイベント」について，生活設計主体である自分の立場や能力から将来を考えることである。

平成25年版厚生労働白書によると，若年者人口が減少し高学歴化が進んでいるが，若者の労働に対する問題が取り上げられている。若者を取り巻く雇用情勢を見ると，1つ目に失業率の問題があり，2010年における15歳～24歳の完全失業率は約8％と，55歳～64歳の失業率のおよそ2倍であることがわかる[2)]。2つ目の問題点は，新規学卒就職者の3年以内の早期離職率であり，短期大学生では，1年目は17.9％，3年目は40.1％と高い離職率であることが示されている[3)]。これらの背景には，若者の仕事観や将来像と職業的意識が関係していると考えられ，「きちんと仕事ができるか」という働くことへの不安を抱いていることも一因である[4)]。

近年，栄養士養成校において，在学中に栄養士の資格取得をあきらめる学生の増加や，栄養士以外の職種への就業者が増加する傾向にあり，本学においても同様の傾向が示されている[5,6)]。これまでに，食物栄養学科あるいは保育学科にて学生の不安傾向の調査報告[7,8)]があるが，いずれも1年次生あるいは2年次生を対象とした，1学年における不安傾向に関する報告であり，2学年にわたる経時的調査報告はない。

そこで本研究では，食物栄養学科学生を対象にライフデザインのあり方を示す学生教育の一助とすることを目的に，学生にとっての重大なライフイベントである職業選択に着目し，1年次から2年次までの不安傾向と栄養士を中心とする職業意識との関連性について調査したので報告する。

２．調査方法

(1) 調査対象

本調査は，2014年度に入学した食物栄養学科学生87名を対象として，1年次は後期授業を開始した2014年10月，2年次は学外実習を終えて後期授業を開始した2015年10月の計2回実施し，男性13名，女性66名，計79名の回答を得た（回答率90.8％）。

(2) 調査内容

1) 職業選択意識に関する調査

栄養士およびその他の職業選択意識について質問紙調査を実施した。質問項目は，性別，年齢の基本属性に関する項目，栄養士とその他職業への就業希望に関する項目の他，独立行政法人日本学生支援機構学生生活調査項目[9)]を参考に，栄養士に対する意識要因として学習面，生活適応面，職業面，人間関係の4項目について自己評価にて回答を求めた。質問紙の様式をFig. 1に示す。

Ⅰ．栄養士について　＜当てはまる番号に〇をつけてください＞

1．あなたは今、栄養士になりたいと思っていますか？

①そう思う　②ややそう思う　③あまりそう思わない　④そう思わない

2．いつからそう思うようになりましたか？

①入学する前　②1年生前期　③1年生後期　④2年生前期　⑤2年生後期

3．その理由学習面での難しさや生活適応面、職業面および人間関係について不安に思うことが、について今どう思っているかお聞きします。

	質　問　項　目	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない
学習面	(1) 講義内容を理解していると思いますか？	1	2	3	4
	(2) 履修科目数は適当だと思いますか？	1	2	3	4
	(3) 課題をこなしていると思いますか？	1	2	3	4
	(4) 学習方法が身についていると思いますか？	1	2	3	4
	(5) 予習や復習に取り組んでいますか？	1	2	3	4
生活適応面	(6) 体力はあると思いますか？	1	2	3	4
	(7) 意欲はあると思いますか？	1	2	3	4
	(8) 生活リズムは整っていると思いますか？	1	2	3	4
	(9) 調理等の作業はできていると思いますか？	1	2	3	4
	(10) 生活資金は大丈夫だと思いますか？	1	2	3	4
職業面	(11) 栄養士の仕事内容がわかりますか？	1	2	3	4
	(12) 栄養士の職場環境がわかりますか？	1	2	3	4
	(13) 栄養士の勤務条件がわかりますか？	1	2	3	4
	(14) 栄養士の「やりがい」がわかりますか？	1	2	3	4
	(15) 目標となる栄養士がいますか？	1	2	3	4
人間関係	(16) 人と関わることが好きですか？	1	2	3	4
	(17) 悩み等について相談する相手がいますか？	1	2	3	4
	(18) 気持ちや考えを伝えることができますか？	1	2	3	4
	(19) 注意や叱責に耐えることができますか？	1	2	3	4
	(20) 気持ちを切り替えることができますか？	1	2	3	4

Ⅱ．栄養士以外について　＜当てはまる番号に〇をつけてください＞

注）Ⅰ－1　で「①そう思う・②ややそう思う」との回答を選んだ方もお答えください。

4.「栄養士」以外では、どんな仕事に就きたいですか？（複数回答可）

	そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	そう 思わない	具体的に（例：調理師　　）
① 調理系	1	2	3	4	（　　）
② 接客系	1	2	3	4	（　　）
③ 事務系	1	2	3	4	（　　）
④ 介護系	1	2	3	4	（　　）
⑤ 教育系	1	2	3	4	（　　）
⑥ その他	1	2	3	4	（　　）

Fig. 1　栄養士の就業希望と意識要因

2）STAI

学生が持つ不安傾向については，新版STAI[10]を使用した。新版STAIは，Spielbergerら[11]のSTAI（FormY）を原版にし，日本人向けに標準化された心理検査である。状態不安と特性不安ともに20問の質問項目で構成され，各項目は1～4点の4段階尺度で得点し合計点で不安の程度を測定する。それぞれの合計得点は，20～80点の値を示し，得点が高いほど不安傾向が高いことを示す。特性不安とは，個人の日常的な特性としての不安傾向を示すものである。また，状態不安は，個人がその時におかれた環境条件により変化する一時的な情緒を示すものであり，本調査では「栄養士として働いている状態」を想定し回答を求めた。

(3) 解析方法

得られた質問紙調査の回答について，栄養士就業希望の有無により，対象を "栄養士就業を希望する群（以下，Y群)"，または "栄養士就業を希望しない群（以下，N群)"の2群に分類し，Y/N両群における不安傾向を，対応のないt検定により比較した。次に，状態不安と職業選択における意識要因との関係について，各項目を「そう思う：1点」，「ややそう思う：2点」，「あまりそう思わない：3点」，「そう思わない：4点」の4段階の尺度で得点化し，その合計をY/N両群について不安傾向との相関をスピアマンの順位相関係数による検定より比較した。また，栄養士就業希望別にみた職業選択に関する意識要因について，得られた回答を「そう思う(そう思う，ややそう思う)」，「そう思わない（あまりそう思わない，そう思わない)」の2区分にまとめ，職業選択に関する各意識要因について，Fisherの直接確率により比較した。群間の比較にはエクセル統計Statcel 3を用い，有効水準は5%とした。

(4) 倫理的配慮

本調査の実施に当たっては，対象となる学生に対して，調査目的，調査内容について口頭および書面にて，同意を得た上で実施した。各調査票は，統計的に処理され個人が特定されることがないこと，得られたデータは研究目的以外に使用することはないこと，回答内容によって個人が不利益になるようなことはないこと，また，途中での同意撤回を認めることを口頭にて充分に説明した。

3．結果および考察

(1) 栄養士の就業希望別にみた特性不安および状態不安の比較

Table 1に，栄養士の就業希望別にみた状態不安および特性不安の比較を示す。a）は1年次，b）は2年次における結果であり，回答数はいずれも79名である。1年次ではY群53名（67.1%），N群26名（32.9%）であった。2年次ではY群48名（60.8%），N群31名（39.2%）であった。食物栄養学科1年次生では栄養士を希望している学生が多く，2年次にY群からN群へ10名，N群からY群へ5名の変化があり，全体で栄養士を希望する学生が5名減少した。

Table 1　栄養士の就業希望別にみた特性不安および状態不安の比較

a）1年次	Y群		N群		有意差
特性不安[1]	51.3	±9.6	47.8	±11.4	n.s.
状態不安[2]	51.7	±9.4	56.7	±8.6	*

b）2年次	Y群		N群		有意差
特性不安[1]	48.0	±10.4	48.7	±10.3	n.s.
状態不安[2]	49.3	±9.5	56.6	±10.3	**

対応のないt検定による，*$p<0.05$，** $p<0.01$，　平均点±SD

1) 特性不安：45～54点「高い」、55点以上「非常に高い」

2) 状態不安：42～50点「高い」、51点以上「非常に高い」

個人の性格傾向を示す特性不安の得点平均は，1年次ではY群が51.3±9.6でありN群が47.8±11.4であり，2年次ではY群が48.0±10.4でありN群が48.7±10.3と，学年およびY/N群に有意差は認められなかったが，いずれも不安傾向が「高い」ことが分かった。

また，栄養士に就業した場合を想定した状態不安の得点平均は，1年次Y/N群，2年次N群で「非常に高い」，2年次Y群では「高い」ことが分かった。Y群とN群の比較では，1年次では$p<0.05$，2年次では$p<0.01$で優位に差が認められ，栄養士就業希望の有無と状態不安の傾向に関連があることが示された。

先行調査[7]において，学生が抱いている不安傾向が大きく関与することを報告しており，本調査においても，状態不安Y/N群で栄養士就業へ対する不安傾向に有意差が認められた。また，有意差

はないが，学生全体の特性不安が「高い」ことが示され，状態不安および特性不安の両方がライフデザインへ影響を及ぼす一因であると考える。2年次での栄養士就業を想定した状態不安を見ると，Y群では1年次よりも不安傾向が低く，栄養士を選択する意識要因に変化があることが推察される。

(2) 栄養士就業希望別にみた状態不安と職業選択における意識要因との関係

次に，栄養士就業へ不安を示す学生が職業選択を変更する背景には，どのような意識要因が関連するか，栄養士就業希望別にみた状態不安と職業選択における意識要因との関係について比較した結果をTable 2 に示す。

Table 2　栄養士就業希望別にみた状態不安と職業選択における意識要因の関係

		状態不安			
意識要因		Y 群		N 群	
1 年次	学習	0.05		0.36	
	生活	0.37	**	0.66	**
	職業	0.43	**	0.26	
	人間	0.39	**	0.08	
2 年次	学習	0.26		0.38	*
	生活	0.43	**	-0.12	
	職業	0.21		0.23	
	人間	0.41	**	0.14	

スピアマンの順位相関係数，　*p<0.05，　** p<0.01

栄養士就業を想定した状態不安と意識要因について，1年次Y群では，生活適応面（p<0.01），職業面（p<0.01），人間関係（p<0.01）について，不安傾向と各項目の合計得点に正の相関が見られた。一方でN群では，生活適応面（p<0.01）について不安傾向と各項目の合計得点に正の相関が見られた。また，2年次Y群では，生活適応面（p<0.01），人間関係（p<0.01）について，不安傾向と各項目の合計得点に正の相関が見られ，N群では，学習面（p<0.05）について不安傾向と各項目の合計得点に正の相関が見られた。

1年次Y群では、栄養士になりたいと思っているが生活適応面，栄養士就業，人間関係について不安を抱いており，特に栄養士就業に対して不安傾向が高いことが分かった。1年次N群では，生活適応面に対する不安傾向が高く，1年生は生活環境が不安定であることが窺える。また，2年次では1年次と比較し，栄養士就業に対する不安傾向が低く変化したことが分かる。これは，学外実習での経験や就職活動が影響するものと考えられる。2年次N群では，1年次には見られなかった学習面での不安傾向が示されたことから，2年次での専門的な学習内容や学習量に関連すると推察される。

(3) 栄養士就業希望別にみた職業選択に関する意識要因について

職業選択に関する意識要因について，各項目別にY/N群で比較検討した結果をTable 3 に示す。a）は1年次，b）は2年次における結果である。1年次については，学習面では「予習復習ができる」（p<0.05），生活適応面では「相談できる人がいる」（p<0.05），職業面では「栄養士のやりがいが分かる」（p<0.01），「目標となる栄養士がいる」（p<0.05）の項目においてY/N群で有意に差が認められた。2年次については，学習面では「学習内容を理解している」（p<0.05），「科目数は適当である」（p<0.01），生活面では「意欲がある」（p<0.01），「調理ができる」（p<0.05），職業面では「栄養士の職務がわかる」（p<0.01），「栄養士の職場環境がわかる」（p<0.05），「栄養士の勤務条件がわかる」（p<0.01），「栄養士のやりがいがわかる」（p<0.01），「目標となる栄養士がいる」（p<0.01）の項目においてY/N群で有意に差が認められた。また，人間関係について，学年およびY/N群での有意差は認められず，肯定的であった。

学習面においてN群では，1年次で予習復習ができない学生が多いが，2年次になると学習方法を習得する一方で，学習内容を理解できない学生，および科目数を多く感じる学生が増加し，栄養士資格習得のための学習自体を忌避していると考える。

生活適応面について，1年次では生活資金で有意差が認められた。2年次になると，N群で意欲が低下する学生が増加したことが分かる。また，調理ができると自負している学生はY群で増加した。2年次では，栄養士として必要とされる調理技術などの具体的な技能に関する自信の有無が意欲に直接影響すると考える。

栄養士の職業については，1年次で，やりがいが分からず目標となる栄養士がない，という学生が多く，2年次になると，Y群では栄養士として

Table 3　栄養士就業希望別にみた各質問項目に対し“そう思う”と回答した者

a）１年次

意識要因	質問項目	“そう思う”と回答した者				有意差
		Y群 (n=53)		N群 (n=26)		
		人	%	人	%	
学習面	(1) 講義内容を理解していると思いますか？	45	84.9	18	69.2	n.s.
	(2) 履修科目数は適当だと思いますか？	41	77.4	17	65.4	n.s.
	(3) 課題をこなしていると思いますか？	41	77.4	20	76.9	n.s.
	(4) 学習方法が身についていると思いますか？	39	73.6	15	57.7	n.s.
	(5) 予習や復習に取り組んでいますか？	30	56.6	7	26.9	*
生活適応面	(6) 体力はあると思いますか？	28	52.8	16	61.5	n.s.
	(7) 意欲はあると思いますか？	38	71.7	16	61.5	n.s.
	(8) 生活リズムは整っていると思いますか？	31	58.5	13	50.0	n.s.
	(9) 調理等の作業はできていると思いますか？	35	66.0	16	61.5	n.s.
	(10) 生活資金は大丈夫だと思いますか？	34	64.2	10	38.5	*
職業面	(11) 栄養士の仕事内容がわかりますか？	43	81.1	18	69.2	n.s.
	(12) 栄養士の職場環境がわかりますか？	30	56.6	9	34.6	n.s.
	(13) 栄養士の勤務条件がわかりますか？	19	35.8	7	26.9	n.s.
	(14) 栄養士の「やりがい」がわかりますか？	37	69.8	8	30.8	**
	(15) 目標となる栄養士がいますか？	11	20.8	1	3.8	*
人間関係	(16) 人と関わることが好きですか？	34	64.2	21	80.8	n.s.
	(17) 悩み等について相談する相手がいますか？	45	84.9	23	88.5	n.s.
	(18) 気持ちや考えを伝えることができますか？	38	71.7	19	73.1	n.s.
	(19) 注意や叱責に耐えることができますか？	42	79.2	21	80.8	n.s.
	(20) 気持ちを切り替えることができますか？	33	62.3	20	76.9	n.s.

Fisher の直接確率による，　*$p<0.05$，　**$p<0.01$

b）２年次

意識要因	質問項目	“そう思う”と回答した者				有意差
		Y群 (n=48)		N群 (n=31)		
		人	%	人	%	
学習面	(1) 講義内容を理解していると思いますか？	42	87.5	20	64.5	*
	(2) 履修科目数は適当だと思いますか？	43	89.6	20	64.5	**
	(3) 課題をこなしていると思いますか？	41	85.4	26	83.9	n.s.
	(4) 学習方法が身についていると思いますか？	39	81.3	20	64.5	n.s.
	(5) 予習や復習に取り組んでいますか？	21	43.8	10	32.3	n.s.
生活適応面	(6) 体力はあると思いますか？	29	60.4	17	54.8	n.s.
	(7) 意欲はあると思いますか？	37	77.1	15	48.4	**
	(8) 生活リズムは整っていると思いますか？	19	39.6	13	41.9	n.s.
	(9) 調理等の作業はできていると思いますか？	41	85.4	20	64.5	*
	(10) 生活資金は大丈夫だと思いますか？	40	83.3	25	80.6	n.s.
職業面	(11) 栄養士の仕事内容がわかりますか？	47	97.9	24	77.4	**
	(12) 栄養士の職場環境がわかりますか？	39	81.3	19	61.3	*
	(13) 栄養士の勤務条件がわかりますか？	35	72.9	13	41.9	**
	(14) 栄養士の「やりがい」がわかりますか？	47	97.9	9	29.0	**
	(15) 目標となる栄養士がいますか？	22	45.8	1	3.2	**
人間関係	(16) 人と関わることが好きですか？	39	81.3	26	83.9	n.s.
	(17) 悩み等について相談する相手がいますか？	41	85.4	29	93.5	n.s.
	(18) 気持ちや考えを伝えることができますか？	36	75.0	23	74.2	n.s.
	(19) 注意や叱責に耐えることができますか？	40	83.3	22	71.0	n.s.
	(20) 気持ちを切り替えることができますか？	30	62.5	22	71.0	n.s.

Fisher の直接確率による，　*$p<0.05$，　**$p<0.01$

のやりがいや目標が明確化し肯定的であるのに対し，N群では1年次と大きな変化はなく，栄養士について分からない学生が多い。

Y群と比較してN群では，将来のなりたい自分を決定するために，自分の置かれている立場や能力について，学習面や技術が困難であるという意識から，栄養士に就業することについて不安傾向が高く，自己効力感が低い傾向にあると考える。これは先行調査[7]と同様の結果であり，現代の若者の仕事観や将来像の問題点として「きちんと仕事ができるか」という，働くことへ不安を抱いている現代の若者の調査報告とも合致していることが分かった[4]。これらの状況を改善するためには，職場体験活動を通じて必要とされる能力・知識を認識すると同時に，働くことの大切さや職業に対するイメージを具体的にすることが効果的であると報告されている[4]。本研究においても同様の結果が示され，本学では2年次の学外実習がこれに相当し，また就職活動を通じて職業に対するイメージが具体化されたため，Y群では栄養士としてのやりがいや目標が明確化したと考えられる。学外実習以外の職業を具体的に体験する機会を増すことによって，学生が仕事観や将来像を考えライフデザインすることができるよう効果があると考える。

(4) 栄養士以外の職業選択について

栄養士N群について，栄養士以外に希望する職業について，複数回答にて集計した結果をFig. 2に示す。調理師や製菓衛生師などの調理に関わる職業は14%，飲食店ホールスタッフやホテルフロント業務などの接客業は35%，医療事務などの事務職は25%，リハビリなど介護職は7%，教員やインストラクターなどの教育に関わる職業は7%，その他には公務員や美容部員などがあった。

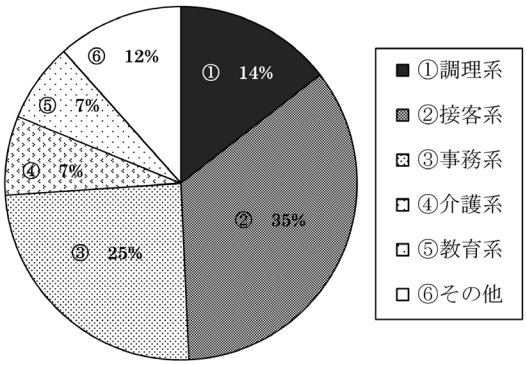

Fig. 2　栄養士以外に希望する職業
（栄養士N群，n＝31，複数選択可）

また，栄養士以外の職業選択を考えた時期について，N群31名のうち23名の回答を得た。結果をFig. 3に示す。最も多いのは1年前期の22.6%であった。次いで2年前期の19.4%と，職業選択について考える時期が大きく2つあることが窺える。

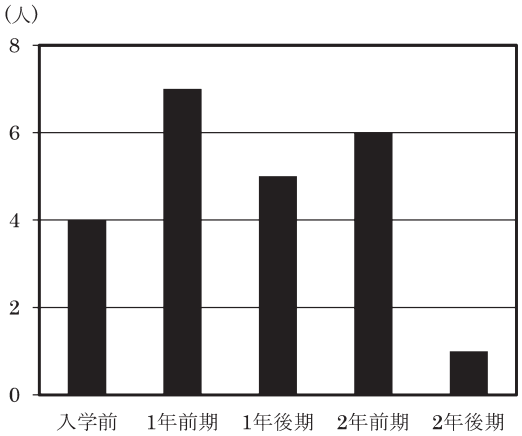

Fig. 3　栄養士以外の職業を希望した時期
（栄養士N群，n＝23）

この理由として，1年次に栄養士以外の職業を考えた理由について，「むいていないと思った」，「授業が合わないと思った」，「アルバイト経験から」，「目標が見つからない」などの意見があった。また，2年次前期では「専門科目が増えた」，「栄養士が思っていたものと違う」，「栄養士以外にも興味を持った」，「実習を通じて」などの意見があった。1年次では，Table 3の結果に示した通り，N群では，学習面について予習復習ができない学生が多く，その影響から2年次では，専門科目が増え学習内容を理解しにくくなる傾向にあり，栄養士以外への就業を考えることが示された。学習面について，1年次前期での予習復習から学習習慣を身につけることによって，学生が主体的に職業選択をマネジメントすることができると考える。特に注目すべきは，2年次での実習を通じて，栄養士が思っていたものと異なったという意見であり，Y群からN群へ変化した学生10名のうち7名が該当している。これは本学学生や栄養士に限らず，

職業選択において課題とされており，学外実習における不安感が影響する[5, 12]。

実習に関するマネジメントでは，職業体験の機会を増やす，代理体験をさせる，教員の支援体制を強化するなど，学生の自己効力感を高めることが有効であると報告されている[13]。本調査においても，N群での将来設計するうえで，「自ら積極的に行動すること」，「職業に必要な技能の向上」，「自己分析」などの自己発達に関わる要因と，「職業につながる経験」，「1年次での進路相談」などの周囲の支援に関わる要因の2つが必要であると示された。また，1年次N群から2年次Y群へ変化した学生6名から，「教員の支援によって栄養士を志すことができた」との意見があり，職業選択に関わるライフデザインについて，自己効力感と周囲の支援体制が重要であることが分かった。

(5) まとめ

本研究では，食物栄養学科学生を対象にライフデザインのあり方を示す学生教育の一助とすることを目的に，学生にとっての重大なライフイベントである職業選択に着目し，1年次から2年次まで不安傾向と職業意識に関する調査を実施した。栄養士に就業した場合を想定した状態不安では，1年次，2年次ともに，栄養士への就業を希望するY群よりも希望しないN群で不安傾向が高いことが分かった。

さらに，状態不安と職業選択における意識要因について，1年次ではY/N群ともに，生活適応面で不安傾向と正の相関が見られたが，2年次では，N群で学習面について不安傾向と正の相関が見られた。

栄養士就業希望別にみた職業選択に関する意識要因について，1年次から2年次へかけて学習方法の習得が鍵となり，学習内容の理解および資格取得意欲へ影響することが分かった。また，調理技術などの具体的な技能の習得が自信につながることも示された。このような段階を経て，2年次での学外実習からY群とN群では，栄養士としてのやりがいや目標に差が生じると考えられる。

以上より，学生にとっての重大なライフイベントである職業選択において，1年次入学後から2年次まで継続した支援が必要であることが明らかとなった。特に，不安に思う要因として，1年次では生活適応面，2年次では学習面と，各段階に応じて異なることに留意し，意識要因をマネジメントすることで不安を解消し，自己実現するための能力を獲得できると考える。そのためには，自己発達に関わる要因と周囲の支援に関わる要因の2つの方向から自己効力感を得ることにより，学生自身が主体的にライフデザインすることができると考える。

4．引用文献

1）御船美智子，村上協子．現代社会の生活経営．2001，3．光生館

2）厚生労働省．平成25年版厚生労働白書 －若者の意識を探る－．

3）厚生労働省．新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移．2016，10．
http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11650000-Shokugyouanteikyokuha kenyukiroudoutaisakubu/0000140596.pdf

4）内閣府．平成24年版子ども・若者白書，第2章　子ども・若者の社会生活．

5）会田さゆり，山本直子．栄養士および管理栄養士養成施設で学ぶ学生の意識調査－栄養士という職業意識の検討－．函館短期大学紀要．2007，33，7-15．

6）西脇泰子，橋本和子．栄養士教育のあり方についての一考察 第1報 学生の意識からみた校外実習と関連科目．聖徳学園大学短期大学部紀要．2011，43，73-84．

7）庭亜子，清水陽子，小岩眞智子．不安傾向と職業意識の関連―栄養士へ対する1年次生の意識―．函館短期大学紀要．2015，41．

8）新沼英明，植月美希，小岩眞智子，木村美佐子．実習前の学生に見られる不安傾向と人間関係の関連．函館短期大学紀要．2010，36，75-81．

9）独立行政法人日本学生支援機構．平成26年度学生生活調査．平成26年11月．
http://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2016/03/14/data-14_all.pdf

10）肥田野直，福原眞知子，岩脇三良，曽我祥子，Spielberger，C．D．新版STAIマニュアル．2000．実務教育出版．

11）Spielberger，C．D．Manual for the Stete-Trait Anxiety Inventory, STAI-form Y. Palto

Alto: AC, 1983, Consulting Psychologists Press.
12）長谷部比呂美．保育実習に関する学生の意識について－実習不安を中心として－．淑徳短期大学研究紀要第46号．2007，2.
13）伊藤ももこ，新井清美，竹内久美子，口元志帆子，古谷剛，石光芙美子，林美奈子．臨地実習が看護学生の心理状態に及ぼす影響－臨地実習前後の自己効力感と自尊感情の変化と学生の特性との関連－．目白大学健康科学研究第3号．2010．67-73.